

第2回宇治市観光振興計画策定専門委員会からの意見・提案

計画の位置づけ・担い手について

- ・宇治市の成長戦略の中で観光は重要と認識されており、行政としても本計画に基づき優先順位を付けて取り組んでいくことを考えている。
- ・観光振興のために、観光事業者等がやりたくてもできなかった事を実現するための計画。
- ・観光事業者等が、当時者意識を持ち、誰よりも宇治市の観光ために汗をかく覚悟が必要。
- ・計画を実現していくのは観光協会が中心になると思われる。このため、観光協会の在り方についても検討していく必要がある。
- ・継続的に事業を進めるには、財政状況が厳しい行政からの支援に頼らないことが重要。

数値目標について

- ・少子高齢化の中で今後も量を追いかけるのか。京都市は量から質になっている。
- ・量を優先すると質の低下が危惧され、全体調和が崩れる恐れがある。結果としてリピーターが減少するのでは。

検討課題1：宇治の観光特性（強み）の強化について

・宇治茶

高級茶としてだけでなく、スイーツなどの面でも集客力のある店舗が増えてきている。

宇治茶の認知度と来宇目的とのギャップに可能性がある。

宇治茶は期待も可能性も高いが、茶園が減少傾向にあるなど危機的状況にあるのも事実であり、観光の視点で危機をどう乗り越え、チャンスにしていけるかが課題。

世界遺産登録への取り組みもある。

検討課題2：宇治の観光課題（弱み）の解決について

・情報発信力の不足

情報発信されていても印象に残らないのは中身の問題。宇治の新しい観光スタイルの発信が必要。また、理論的な情報は発信できているが情緒的な情報、物語性のある情報発信が不

足している。

- ・商品開発力の不足

リピーターが「食べたい」「買いたい」と思えるものがないのは観光地として致命的。魅力的なメニュー、お土産の開発が必要。

- ・観光コンテンツの不足

観光コンテンツの不足がリピーターの不足に繋がっている。観光コンテンツが豊富にあれば観光客は何度でも訪れ、情報発信も業者が進んでやってくれる。市民参加を含めた観光コンテンツの発掘が必要

その他

女性の目線だけでなく、高齢者の目線も重要。

業種の異なる観光関連団体が同じテーブルについて情報共有できるしくみがなかったが、それぞれの得意分野や成功事例のノウハウを共有し、強みの連携を図った観光振興を進めていく必要がある。

今後の専門委員会での取り組み予定

各観光関連団体において既に実施している事業や、今後取り組んでいけば有効と考えられる事業等について検討し、計画に反映できるよう調整していきたい。